

## 学術集会 ご報告

# 第21回 日本生殖内分泌学会学術集会を控えて



会長

杉野 法広

山口大学大学院  
医学系研究科  
産科婦人科学  
教授

この度、第21回日本生殖内分泌学会学術集会を担当させていただくことになり、大変光栄に存じます。

本学術集会は、生殖内分泌学に関わる基礎系および臨床系のさまざまな分野の研究者が一同に集い、最新の知見を発表し議論する場として、大きな役割を担っています。特に、若い世代の研究者の育成と互いの交流が本会の発展には重要です。

うれしいことに、最近の学術集会は、発表演題数が多くなり、そして内容も高いレベルになっていると感じています。過去の抄録集を振り返ってみますと、2011年までは、一般演題が30題前後でしたが、2012年は48題、2013年は57題、2014年は40題と発表演題が増加しています。その一方で、日程が限られていることから、演題数の増加に伴い発表と質疑の時間が短くなっています。そこで、本学術集会では、抄録申し込みの時点で多くの演題が集まれば、シンポジウムは行わずに、その時間を一般演題に分配し、少しでも活発な議論をしていただき、若手の研究者の皆さんに、有意義な学術集会にさせていただこうかと考えています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第21回日本生殖内分泌学会学術集会 会長

杉野 法広

山口大学大学院医学系研究科産科婦人科学